

項目	取組状況
教育	<p>◆ 平成 30 年度担当科目 水循環工学 I (3C)、水循環工学 II (4C)、水・土質環境実験(4C)、環境衛生工学(5C)、水環境工学(専攻科 2 年)、基礎研究(4C)、卒業研究(5C)、工学特別ゼミナール I (専攻科 1 年)、工学特別ゼミナール II (専攻科 2 年)</p> <p>◆ 担当科目の取組状況(工夫・改善した点) 講義科目では單元ごとに小テストを実施して、授業の復習を行うようにした。授業中に学生を指名して答えていく形式にして、緊張感を持って自分の言葉で発表するように促した。また、</p>
研究	<p>◆ 平成 28~30 年度における研究業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学術論文執筆 ● 大谷壮介, 安原汰唯我, 辻大地(2018): 淀川河口干潟の一次生産者による炭素固定機能の評価, 土木学会論文集 B2-74 (海岸工学), Vol. 74, No. 2, pp. L1207-L1212. ● 大谷壮介, 野元あい, 上村了美, 東和之, 上月康則(2018): 大阪湾湾奥で再確認されたウミニナの生息環境に関する考察, 土木学会論文集 B3-74 (海洋開発), Vol. 74, No. 2, pp. L504-L509. ● Akira Umehara, Satoshi Asaoka, Naoki Fujii, Sosuke Otani, Hironori Yamamoto, Tetsuji Okuda, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima (2018): Biological productivity at lower trophic levels with intensive oyster farming in Hiroshima Bay, Japan, <i>Aquaculture</i>, 495, pp.311-319. <p>他 11 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国際会議での発表 ● Sosuke Otani, Akira Umehara, Satoshi Asaoka, Naoki Fujii, Tetsuji Okuda, Daichi Tsuji, Haruka Miyagawa, Satoshi Nakai and Wataru Nishijima (2018): The role of nutrient sink of <i>Zostera marina</i> on a benthic sandy tidal flat in Hiroshima Bay, Japan, EMECS12, P-13, Pataya, Thailand ● Naoki Tabata, Sosuke Otani, Rin Hirakawa, Junya Miyoshi, Naotaka Yoshimura, Takayuki Kusakabe, Yasunori Kozuki (2018): Spatial distribution of phosphorus in sediments at Inner Part of Osaka Bay and Yodo river estuarine, Japan, EMECS12, P-11, Pataya, Thailand ● Sosuke Otani, Kazuyuki Higashi, Kengo Kurata, Yasunori Kozuki (2017): Estimation on the amount of food ingested in <i>Macrophthalmus japonicas</i> using feeding pellets, The Third Asian Marine Biology Symposium, P3-14, Kumamoto, Japan <p>他 8 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学術講演会での発表 ● 田畑直樹・大谷壮介(2018): 大阪沿岸部および淀川汽水域における堆積物のリンの分布, 平成 30 年度土木学会関西支部年次学術講演会, VII-5. ● 平野健太郎・遠藤徹・大谷壮介(2018): 炭素・窒素安定同位体分析による大和川遡上

	<p>アユの起源推定に関する基礎研究，平成 30 年度土木学会関西支部年次学術講演会，VII-7.</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平川倫，岩見和樹，上村了美，大谷壮介，山中亮一，上月康則(2018)：尼崎運河での生物生息場所の創出に関する調査研究，第 26 回瀬戸内海研究フォーラム in 兵庫，P16. 他 18 件 <p>◆ 平成 28～30 年度における外部資金獲得状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 物質循環を駆動する河口干潟の炭素固定機能の動態解明，科学研究費補助金若手 B，研究代表者，平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月 ● 里海創出を目指した都市海の「小わざ」と「ふるさと化」に関する実証研究，科学研究費補助金基盤 B，研究分担者，平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月 ● 大阪湾湾奥の運河での魚類の種多様性向上に向けた生息場創出に関する研究，平成 30 年度大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成，研究代表者，平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月 <p>他 2 件</p> <p>◆ 学会などでの受賞</p> <p>平成 28 年 8 月， EMECS11 - Sea Coasts XXVI Joint Conference Best Poster Award</p>
社会貢献	<p>◆ 平成 28～30 年度における公開講座・出前授業の取組状況</p> <p>寝屋川再生ワークショップ水辺の市民活動，H28-29</p> <p>◆ 平成 28～30 年度における学協会等の委員</p> <p>平成 29 年 6 月～ 生態系工学研究会，企画代表</p>